

運 動 器

科目責任者 種 市 洋
学年・学期 3 学年・3 学期

I. 前 文

高齢者社会を迎え運動機能の障害は大きな社会問題となっています。わが国の平均寿命は世界一となりましたがその質はどうでしょうか？死の直前まで健康で動き回れることこそが大切であり、運動器の健康無くして真の健康なしといえます。運動器を扱う整形外科の疾患は変性性疾患、外傷（労働災害、交通事故などによる）、スポーツ外傷・障害、関節リウマチ、骨軟部腫瘍、先天性疾患など乳幼児から高年者まで、男女の別を問わず広い範囲にまたがっています。当科目は整形外科的疾患の病態、診断法および治療法とリハビリテーションについて講義します。病態では局所解剖を十分に理解し、疾患発症のメカニズムを論理的に理解出来るように講義します。診断法では、問診、身体的所見のとり方および画像診断も含めた講義を行います。治療法は各疾患に対し、現在、最も一般的に行われている治療法を、手術的治療を含めて講義します。運動器の健康が人間としての尊厳を保つ上で最も基本といえるQOL（quality of life）をいかに左右するかということを知り、整形外科的疾患を修得して欲しいと思います。

II. 担当教員

整形外科：種 市 洋、大 関 覚（埼玉医療センター）、長 田 伝 重（日光医療センター）、
神 野 哲 也（埼玉医療センター）、飯 田 尚 裕（埼玉医療センター）、
栃 木 祐 樹（埼玉医療センター）、稲 見 聡、森 平 泰、竹 内 大 作、
富 沢 一 生、上 田 明 希、柴 佳奈子、山 口 雄 史

リハビリテーション科学：美津島 隆、渋谷 健一郎

病理診断学：石 田 和 之

III. 一般学習目標

運動器疾患・外傷を理解すべく運動器の機能解剖・生理・生化学・生体力学の基礎知識を学習する。

運動器疾患・外傷の診断に必要な基本的な診察法、画像所見を学習する。

運動器疾患の病因・病態、病名に関する知識および治療法を学習する。

運動器外傷の救急処置、プライマリーケア、その後の治療法の基本的知識を学習する。

運動器の治療にはリハビリテーションがいかに重要かを学習する。

治療にあたる医師としての基本的理念についても改めて学んでほしい。

IV. 学修の到達目標

5年生でCCを行う際に、受け持ち患者や他の入院患者を診察し、病名診断をつけ、その疾患の病因・病態を理解し、さらにはどのような治療法が適当であるか自分なりに判断できる知識を習得すること。

またその際に、指導教官との会話や診療録によく使われる欧語での医学用語を出来るだけ覚えること。

V. 授業計画及び方法

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者
1	11	4	水	6	整形外科の歴史と疾患の概要	整 形 外 科 学 種 市 洋
2		5	木	5	四肢の機能解剖	整 形 外 科 学 富 沢 一 生

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	
各3	3	11	5	木	6	腰椎疾患	整形外科学 森 平 泰
	4		6	金	6	骨の組織と疾患の病理（非腫瘍）	病理診断学 黒 田 一
	5		9	月	1	関節疾患の病理（非腫瘍）	病理診断学 中 里 宜 正
各3	6		9	月	2	治療 理学療法と作業療法	リハビリテーション科学 美津島 隆
	7		11	水	4	骨折の基本（分類・症候・診断・治療）	整形外科学 柴 佳奈子
	8		12	木	1	脊柱・骨盤の機能解剖	整形外科学 上 田 明 希
各3	9		12	木	2	下肢の骨折と小児期の疾患	整形外科学 富 沢 一 生
	10		13	金	4	骨軟部腫瘍の病理	病理診断学 金 子 有 子
	11		13	金	5	病理実習（非腫瘍性疾患）	病理診断学 金 子 有 子
実	12		13	金	6	病理実習（腫瘍性疾患）	病理診断学 金 子 有 子
	13	12	2	水	1	関節炎，腱鞘炎の病態，診断と治療	整形外科学 柴 佳奈子
	14		2	水	2	上肢の骨折と小児期の疾患	日光・整形外科 長 田 伝 重
実	15		2	水	3	絞扼性末梢神経障害の症候と治療	日光・整形外科 長 田 伝 重
	16		7	月	1	切断のリハビリテーション	リハビリテーション科学 洪 谷 健 一 郎
	17		7	月	2	装具，車椅子，自助具，杖，その他福祉機器	リハビリテーション科学 美津島 隆
	18		7	月	3	歩行の運動学と評価，転倒の予防	リハビリテーション科学 美津島 隆
	19		10	木	1	脊椎脊髄損傷の診断と治療	整形外科学 森 平 泰
	20		10	木	2	骨の成長，形成，吸収の機序と疾患	整形外科学 稲 見 聡
	21		10	木	3	高齢者の運動器疾患（ロコモ・サルコペニア含む）	整形外科学 稲 見 聡
	22	1	12	火	5	脊髄損傷のリハビリテーション	リハビリテーション科学 美津島 隆
	23		12	火	6	筋骨格系の徒手検査と画像診断の基本	整形外科学 竹 内 大 作
	24		13	水	5	変形性関節症の症候，診断と治療	埼玉・第二整形外科 神 野 哲 也
	25		13	水	6	頸椎疾患・脊椎感染症	埼玉・第一整形外科 飯 田 尚 裕
	26		15	金	3	四肢外傷の診断，初期治療，合併症	整形外科学 山 口 雄 史
	27		15	金	4	関節の脱臼・靭帯損傷（スポーツ障害含む）	埼玉・第一整形外科 栃 木 祐 樹
	28		15	金	5	骨軟部腫瘍	埼玉・第一整形外科 大 関 覚

注) 上表のうち、左端の「各3」「実」と表示されたコマは、それぞれ別科目「病理学各論Ⅲ」、「病理学各論実習」の授業であるが、科目構成上「運動器」の授業とともに表記されている。

VI. 評価基準（成績評価の方法・基準）

期末テストの60点以上を合格とする。

講義回数の三分の一以上欠席すると期末試験の受験を停止する。（対象回数は『病理学各論Ⅲ』・『病理学各論実習』を除く）

VII. 教科書・参考図書・A V資料

整形外科学

教科書・参考書 : 新版 整形外科学・外傷学 (文光堂)

整形外科 Text (南山堂)

標準整形外科学 (医学書院)

A V資料, その他: 講義担当者によって異なる。

リハビリテーション科学

神経疾患のリハビリテーション 第2版 (南山堂)

プリントをわたす

放射線医学

教科書・参考書 : 標準放射線科学 (医学書院)

病理学

教科書・参考書 : 非腫瘍性骨・関節疾患の病理, 2003 (文光堂)

Orthopaedic Pathology. 3rd edition, 1997

(Mosby-Wolfe)

VIII. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置くDP ○：重点を置くDP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能，種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い，他者に説明することができる。	◎
	種々の疾患の診断や治療，予防について原理や特徴を含めて理解し，他者に説明することができる。	◎
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け，正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け，患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	○
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け，患者やその家族，あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	○
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	○
	書籍や種々の資料，情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し，自らの学修に活用することができる。	○
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち，専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち，実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し，自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け，自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	

IX. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験内容の質問等に関して都度解説する。

X. 求められる事前学習，事後学習

シラバス別冊に記載があります。なお，シラバス別冊に記載が無い場合，要点を確認しておくこと。（所要時間の目安20分）

XI. コアカリ記号・番号

シラバス別冊に記載があります。なお，シラバス別冊に記載が無い場合，要点を確認しておくこと。（所要時間の目安20分）